

一八八二年三月十一日(土)

聖ラーマクリシュナ、信者と共に

〔聖ラーマクリシュナ、バララーム家の礼拝堂において、信者たちと共に歓喜に満ちて踊る〕

夜八時ころのこと、ドラ・ヤートラ(クリシュナ神の春祭／ホーリー)の七日後、ラーム、マノモハン、ラカール、ニティヤゴパールなどの信者たちがあのかたを囲んで立っている。誰もがハリの名を夢中になって唱えている。何人かの信者は恍惚状態(前三昧)になっている。ニティヤゴパールは感情の高まりのために、朱を塗ったようになっていた。一同が席だったので、校長はタクルルにごあいさつ申し上げた。見るとラカールは横たわっていて、無意識で前三昧の状態である。タクルルは彼の胸に手を当てがって、「シャーンティ、シャーンティ(平安なれ、平安なれ)」と言っておられる。ラカールにとっては、これが二回目の前三昧の恍惚状態である。彼はカルカッタの父の家に住んでいて、時々、タクルルにお目にかかりに来るのだ。その当時はしばらくの間、シャームプクルのヴィディヤサーガル先生の学校で学んでいた。

タクルルが、校長に南神寺ドクキヤンシヨルで、「わたしはカルカッタのバララームの家に行くから、お前もそこにおいで」とおっしゃったので、彼はお会いしに行ったのである。ファルグン月(2-3月)の二十八日、

キリスト暦一八八二年三月十一日、土曜日。バララーム氏がタクールを招待して、来ていただいたのである。

次いで、信者たちはベランダに坐つて、食事のもてなしをうけた。バララームはそのそばに召使いのように立っていて、見たところ、この方がこの家の主人とは思えないような態度だった。

校長はここでは新参者なので、まだ信者たちとは馴染みがない。ただ南^{ドツキネーショル}神寺でナレンドラと話をしただけであった。